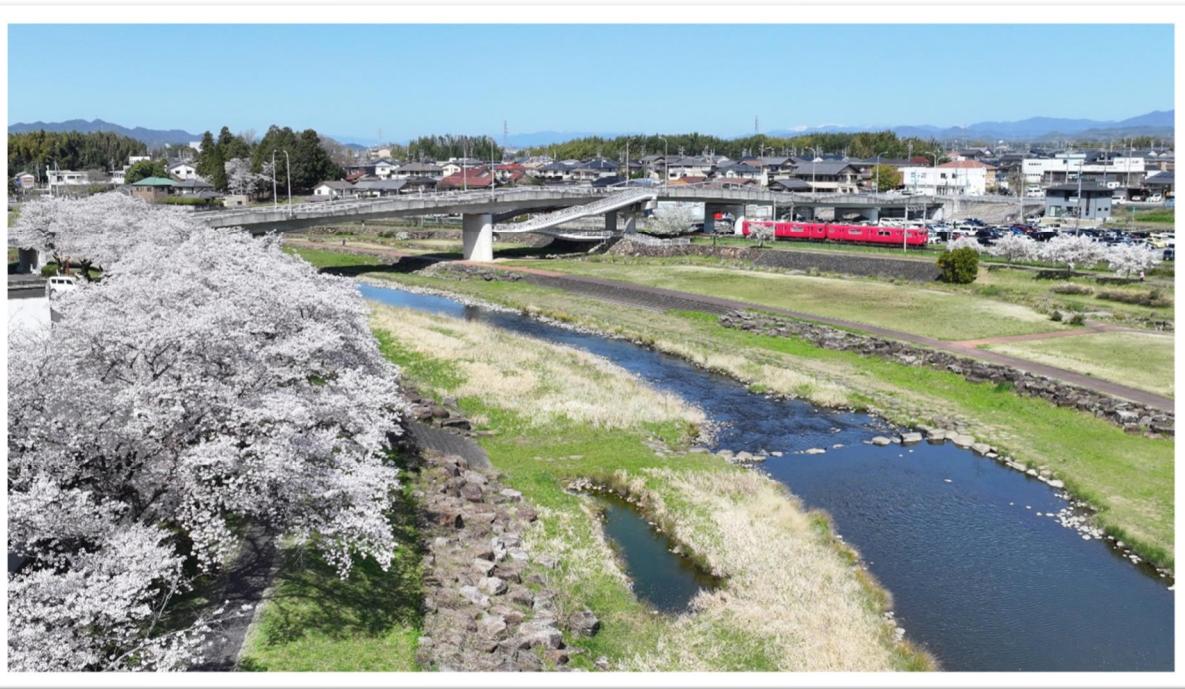




橋梁長寿命化修繕計画

【令和7年度～令和11年度】



令和7年3月（改訂版）

【目 次】

1. 橋梁長寿命化修繕計画とは	1
2. 可児市の管理橋梁の概況	1
2-1 可児市の橋梁の概況	1
2-2 可児市の橋梁の特徴	3
3. これまでの取り組み	5
3-1 橋梁の状態を把握するための取組み	5
3-2 橋梁の状態	6
4. 橋梁長寿命化修繕計画	7
4-1 計画方針	7
4-2 対策検討	9
4-3 対策内容	10
4-4 対策スケジュール	12
4-5 計画期間	13
5. 予防保全による効果	14
6. 今後の取り組み	
6-1 新技術の導入	15
6-2 集約化・撤去等による費用縮減	15
6-3 職員による点検の継続	15

【巻末資料】・可児市管理橋梁一覧表

1. 橋梁長寿命化修繕計画とは

橋梁は年とともに劣化や損傷が生じますが、それらが進行して大きな被害が発生しないように、点検と修繕工事(再塗装やひび割れの補修など)を行う必要があります。

本計画は、限られた財源の中で通行の安全性を確保し効率的な維持管理ができるように、点検や修繕工事などの予定を示した計画です。

2. 可児市の管理橋梁の概況

2-1 可児市の橋梁の概況

- ・可児市道の延長は、714,369m となっています。(令和6年3月現在)
- ・可児市橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁は、市道上にある橋梁を対象として、橋梁数は 282 橋です。(令和7年3月現在)
- ・対象とする橋梁は、河川上に架かる橋や線路を跨ぐ跨線橋や道路を跨ぐ跨道橋を対象としています。

＜橋梁の種類＞

<p>鉄筋コンクリート橋 鳥屋場橋(可児市広見地内)</p> 	<p>プレストレスト・コンクリート橋 さつき大橋(可児市広見地内)</p> 
<p>鋼橋 あけぼの橋(可児市谷迫間地内)</p> 	<p>溝橋(ボックスカルバート) 第一中津良橋(可児市下恵土地内)</p> 
<p>跨線橋 川合跨線橋(可児市川合地内)</p> 	<p>跨道橋 市道 50 号線跨道橋(可児市土田地内)</p> 

2-2 可児市の橋梁の特徴

2-2-1 橋梁の建設年代

- ・可児市が管理する橋梁の多くは、1970～1980 年代に建設されています。
 - ・高度経済成長期に建設され、50 年を経過した「高齢」と言われる橋梁の割合は増加しており、10 年後には約 79% が 50 年を経過した橋梁となります。
- 補修時期が集中し、費用が著しく増大することが懸念されます。**

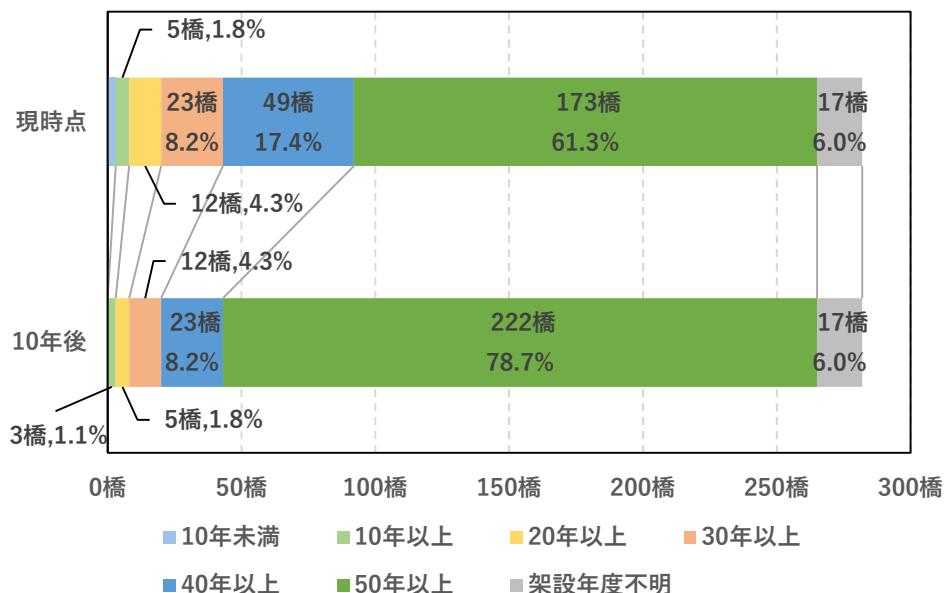


図2 橋齢の割合

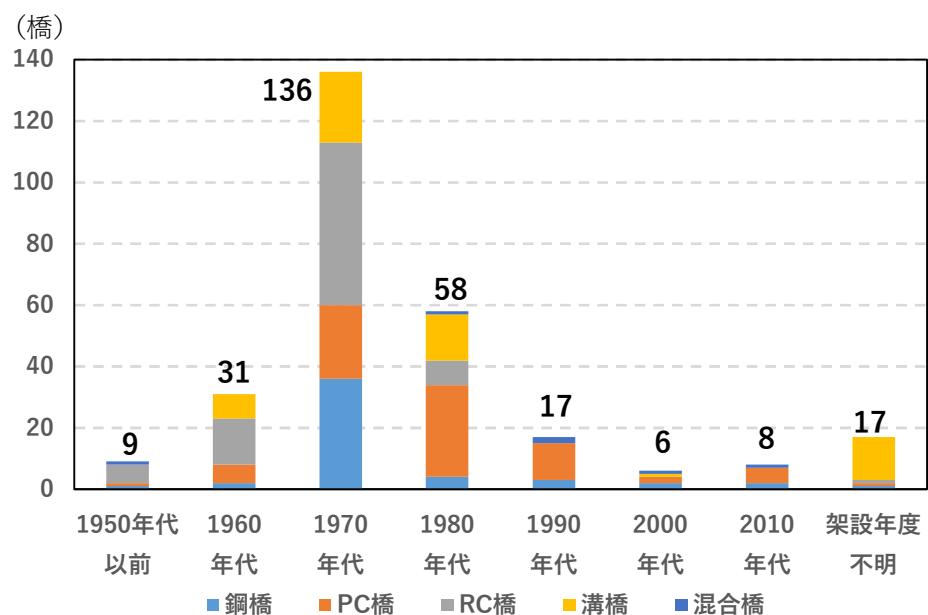


図3 架設年度・構造別橋梁数

2-2-2 橋梁の橋長と材料

- ・可児市が管理する橋梁は、橋長 10m 未満の小規模な橋梁が約半数を占めています。
- ・10m 未満の橋梁は、鉄筋コンクリート橋(RC 橋)、ボックスカルバート(溝橋)の割合が高く、10m 以上の橋梁では、鋼橋、プレストレスト・コンクリート橋(PC 橋)の割合が高い傾向にあります。
- ・橋梁の材料別の割合で見ると、全体の約8割はコンクリート橋となっています。

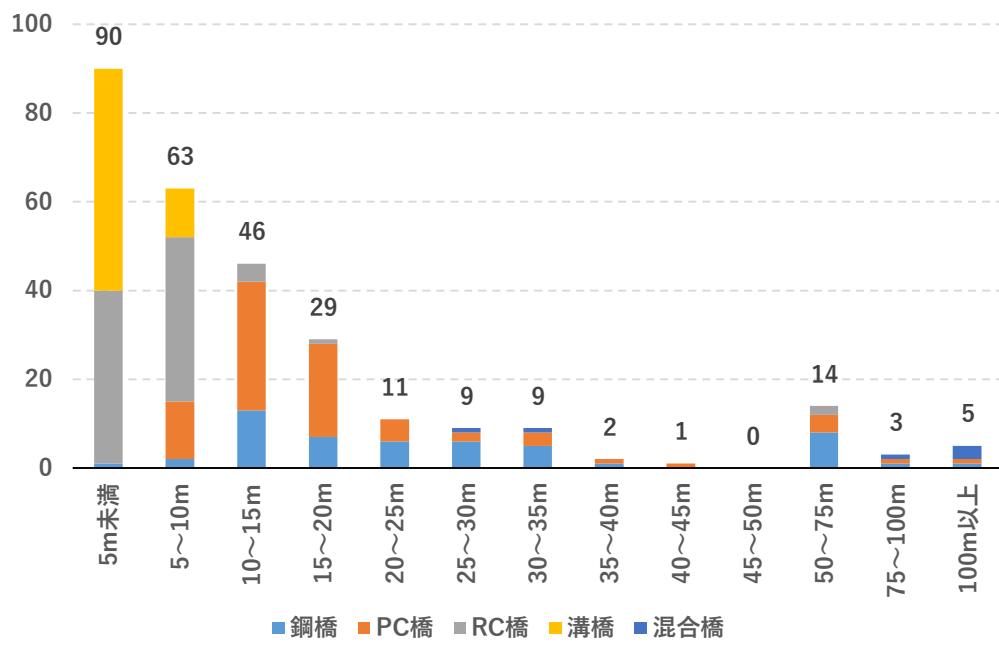


図4 橋長別の橋数

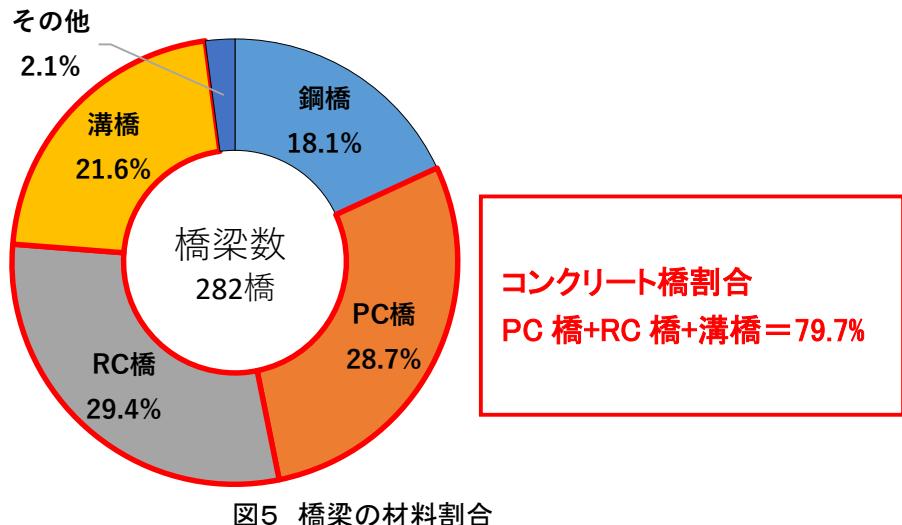


図5 橋梁の材料割合

3. これまでの取り組み

3-1 橋梁の状態を把握するための取組み

- ・可児市では、橋梁の状態を把握するために、橋長5m 以下の橋梁は必要な講習を受けた職員による直営点検を行い、橋長5m を超える橋梁は、点検に必要な知識や技能を有する技術者による定期点検を5年に1回の頻度で実施しています。また、平成 26 年度から平成 30 年度にかけて1巡目点検、令和1年度から令和5年度にかけて2巡目点検を実施しました。
- ・定期点検は橋梁点検車等を用いて、橋梁に近づき損傷の状態を把握する「近接目視点検」を行っています。
- ・定期点検の結果は、下表に示す4段階で区分し、損傷状態を評価しています。



橋梁点検車による点検



高所作業車による点検

表2 健全性の判定区分

判定区分	評価	損傷の状態	健全性
I	健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態。	良い
II	予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。	
III	早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。	
IV	緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。	悪い

3-2 橋梁の状態

- ・橋梁の状態について、令和6年度末時点では、管理する橋梁の約38%が健全、約58%が予防保全段階となっています。

令和1年度から令和5年度にかけて実施した定期点検(2巡目)の結果は、健全(I)が約37.5%(105橋)、予防保全段階(II)が約57.5%(161橋)、早期措置段階(III)が約4.6%(13橋)となっており、緊急措置段階(IV)が約0.4%(1橋)確認されました。

表3 2巡目点検(令和1~5年度)における健全性の判定区分

判定区分	評価	橋梁数
I	健全	105 橋
II	予防保全段階	161 橋
III	早期措置段階	13 橋
IV	緊急措置段階	1 橋
合計		280 橋

4. 橋梁長寿命化修繕計画

4-1 計画方針

4-1-1 メンテナンスサイクル

- ・全ての橋梁について、5年に1回の定期点検結果に基づき、対策の要否を判断、橋梁毎に今後の補修等の計画を策定、必要な予算を確保した上で主に予防保全型の補修を実施していきます。
- ・点検、診断、措置、記録のメンテナンスサイクル（点検→診断→措置→記録）を回していくことを基本方針としています。

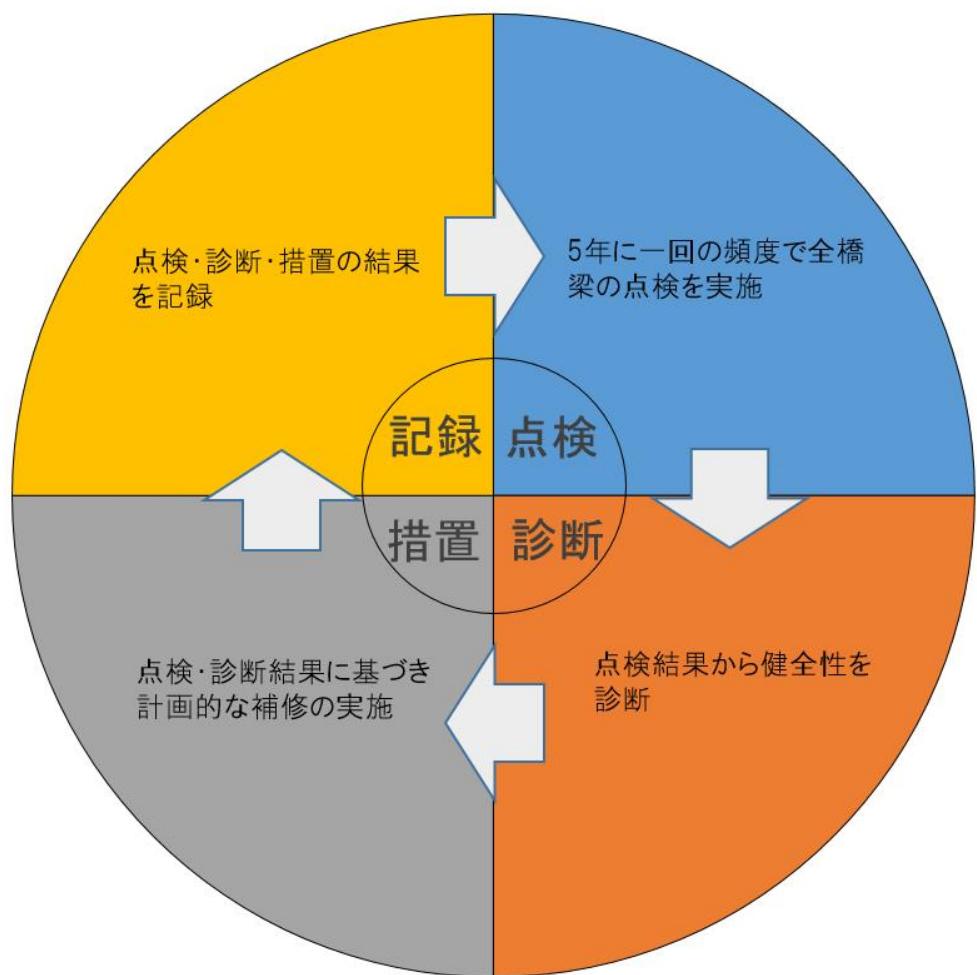
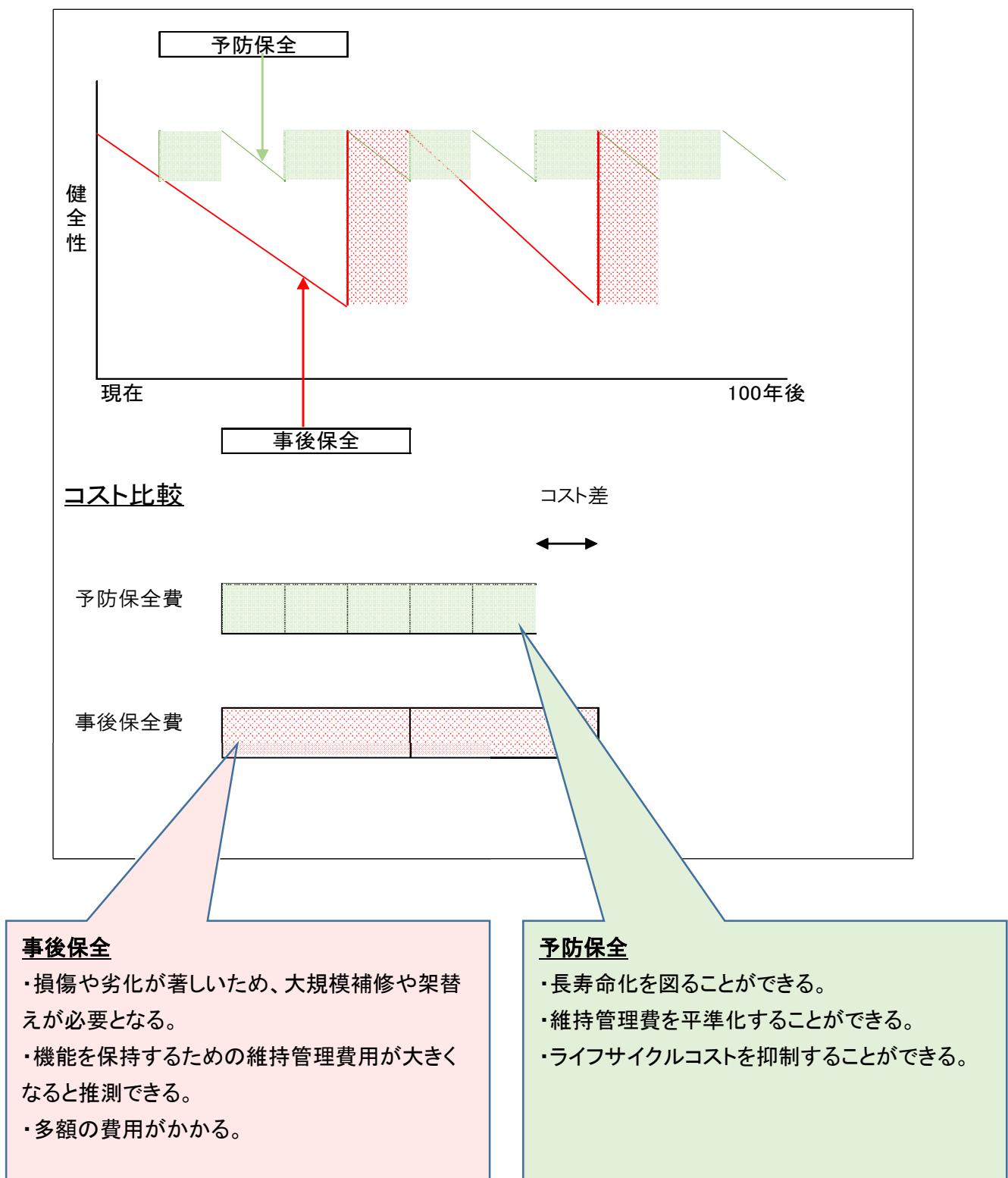


図6 メンテナンスサイクル表

4-1-2 予防保全の取り組み



4-2 対策検討

- ・補修工事等の対策の優先順位の考え方は、点検結果で健全性が低い橋梁をピックアップし、対策を講じます。
- ・判定区分IVの橋梁は即時通行止め・落橋・架け替え等の対応を行います。

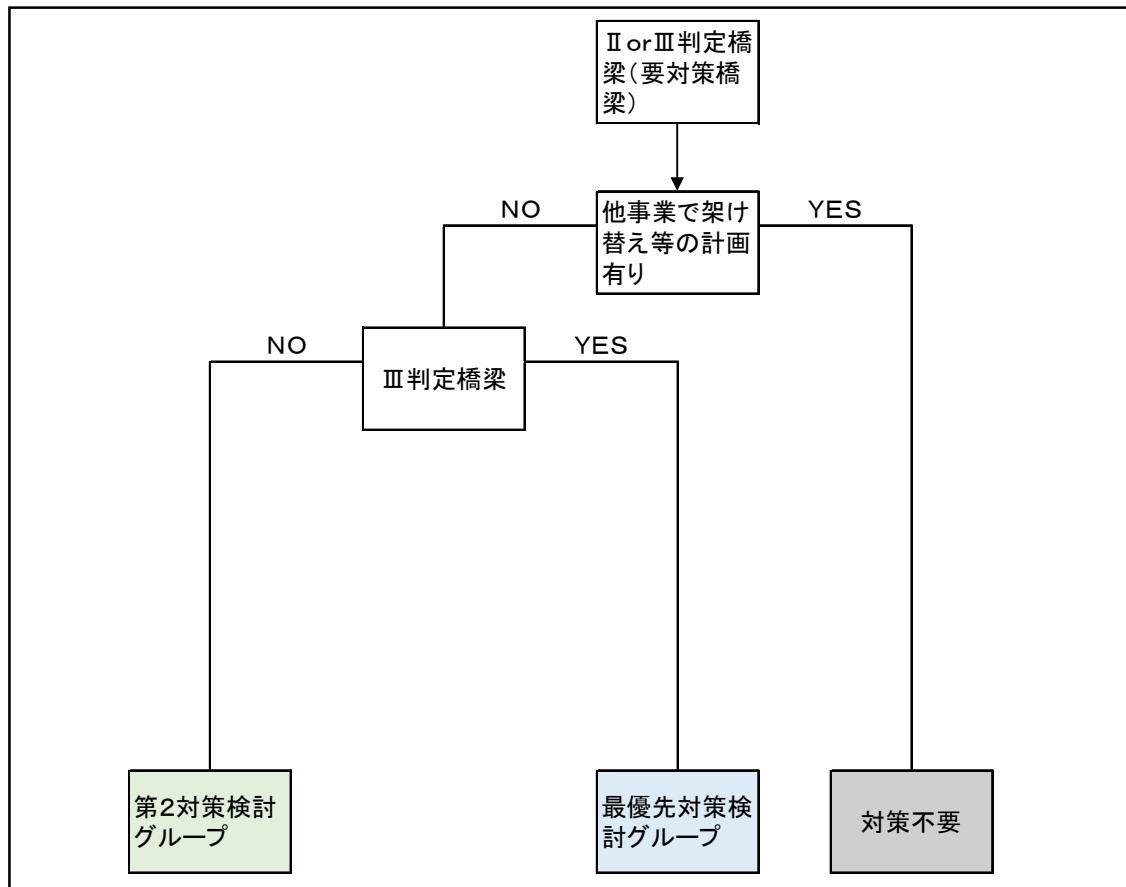


図8 優先順位フロー図

4-3 対策内容

- ・対策内容は最優先対策検討グループを中心に、補修工事と架替えのライフサイクルコストを比較した上で適切な対策を選定します。最優先対策検討グループは第3者被害の恐れがある橋(鉄道や道路に架かる橋)、判定区分Ⅲの橋を定義します。
- ・可児市で実績の多い主な補修工法を以下に示します。

1. 最優先対策検討グループ

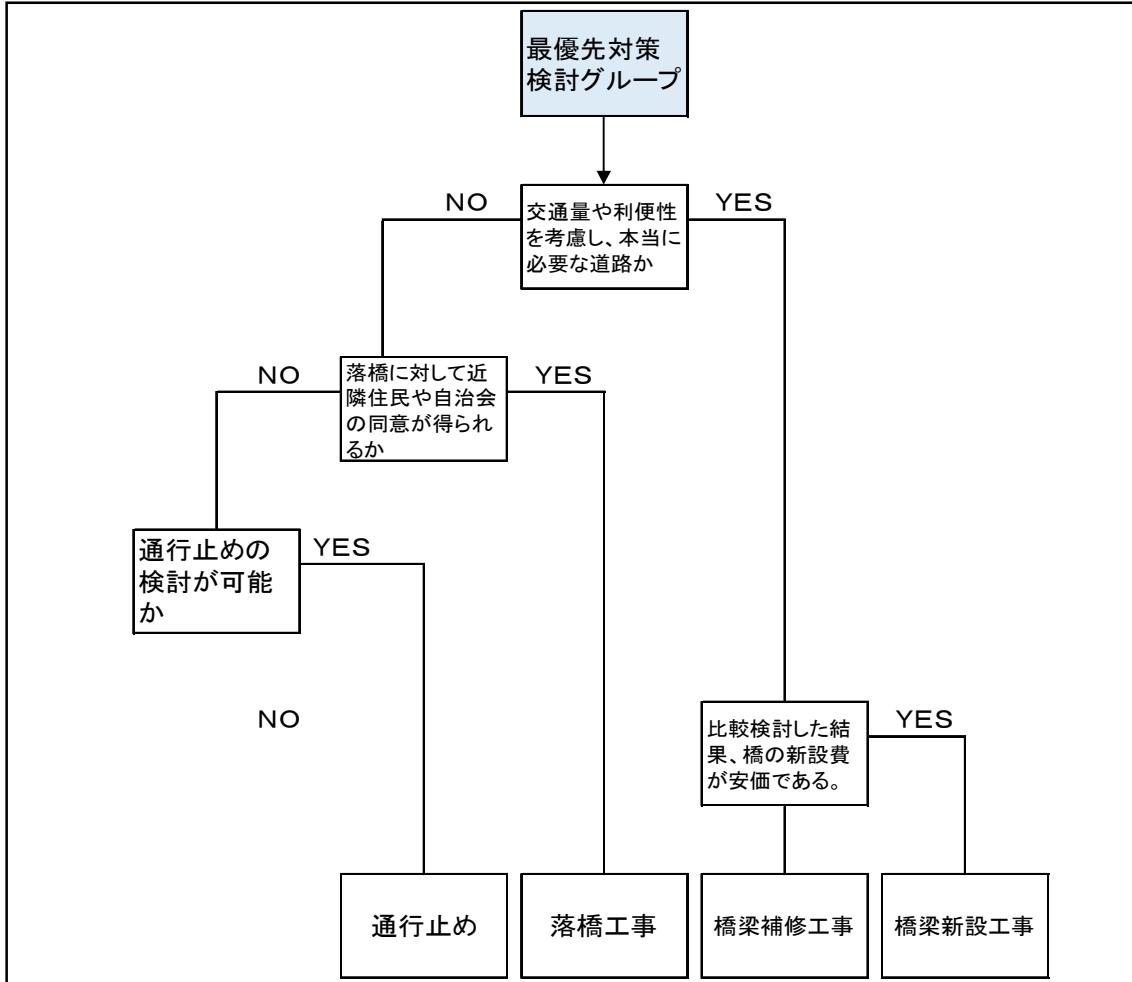


図9 最優先対策検討グループ選定広報図

2. 第2対策検討グループ

現状でⅡ判定以下の点検結果の橋梁については、次回の5年点検まで推移を見守ることとしています。ただし、鉄道や道路を跨ぐ跨線橋や跨道橋は、コンクリートの剥落等により第三者に対して人的被害、交通障害を与える恐れがある橋については、優先的に対策を行っていきます。

3. 主な補修工法

表4 損傷別補修工法表(車道部)

部材	損傷状況	考えられる原因	補修対策
主桁・横桁	防食機能の劣化	経年による塗膜劣化	塗装塗替え工
床版	剥離・鉄筋露出	かぶりが薄い部位における鉄筋の腐食	断面修復工
	床版ひびわれ	車両の通行による疲労	ひびわれ注入工
伸縮装置	橋座面に漏水 後打ちコンクリートの剥離	止水性能の低下 経年劣化	伸縮装置取替え工 (地覆止水工)
舗装	舗装の異常(剥離)	経年劣化	舗装部分打換え工
防護柵	レールの変形・欠損(※1)	車両の衝突	視線誘導対策
排水管	防食機能の劣化	経年による塗膜劣化	塗装塗替え工
歩道車道境界	漏水	目地材の未設置	橋梁間隙間対策

※1 防護柵におけるレールの変形・欠損は、レール交換により補修済補修対策は防護柵の視認性を向上するための対策とします。

表5 損傷別補修工法検討表(歩道部)

部材	損傷状況	考えられる原因	補修対策
主桁・横桁	防食機能の劣化	経年による塗膜劣化	塗装塗替え工
床版	剥離・鉄筋露出	かぶりが薄い部位における鉄筋の腐食	断面修復工
	床版ひびわれ	乾燥収縮	ひびわれ注入工
伸縮装置	橋座面に漏水 路面の凹凸 エラスタイトの飛び出し	止水性能の低下 経年劣化	伸縮装置取替え工 (地覆止水工)
排水管	防食機能の劣化	経年劣化	塗装塗替え工

4-4 対策スケジュール

・対策内容と実施時期は下記のスケジュールで実施します。

- ① 定期点検：5年に1度実施。
- ② 詳細調査、補修設計：原則として対策工事の前年に実施。
- ③ 対策工事：補修設計をもとに工事施工

その他、本計画期間内に耐震補強工事等が計画されている橋梁は、緊急性のある損傷がある場合を除き耐震補強工事等にあわせて補修対策を実施。

① 定期点検

・点検結果を基に点検調書を作成



様式1

記録名・所在地・費用者名等		記録名	所在地	組合員	総額	税額	税込額
○の橋 [シリアルナンバー]	○○号館	河津市○○			○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
責任者名	定期点検実施年月日	点検者名	代賃貸の有無	巴專道→一般道	緊急輸送有無	占用物件(名稱)	
河津市	○月○日	○○川	有	一般道	その他	-	
記録用の記入欄(1からH項)最も新しい順を記入							
記録用欄(記入欄)		記録用欄(記入欄)		記録用欄(記入欄)		記録用欄(記入欄)	
部材名	判定区分 (I～IV)	変状の種類 (0以上の場合は ○○○○○○)	備考(劣化箇所、 位置等が分かる 場合は○○○○○○)	記録用欄(記入欄)	記録用欄(記入欄)	記録用欄(記入欄)	記録用欄(記入欄)
上部構造 (主筋)	I	○○	劣化○				
下部構造 (基礎)	I	○○	劣化○				
支承部	I	○○	劣化○				
その他	I	○○	劣化○				
上部構造の健全性の結果(判定区分)～IV							
下部構造の健全性の結果(判定区分)～IV							
(判定区分) (検見場)							
I ○○							
全長空き(記述欄、検査用記述欄のこと)							
空洞空き		○○m	○○m				
構造物空き		○○○○					
※記録用欄が不規の場合は「不規」と記入する。							

調書作成

② 詳細調査、補修設計



③対策工事



伸縮装置取り付け



シーリング材充填

4-5 計画期間

- ・計画期間は、令和7年度から令和11年度の5年間です。(次期計画は令和12年度～)
- ・定期点検が1周りするタイミングで計画を更新します。これにより最新の定期点検結果を反映した優先順位の計画とすることが可能となります。

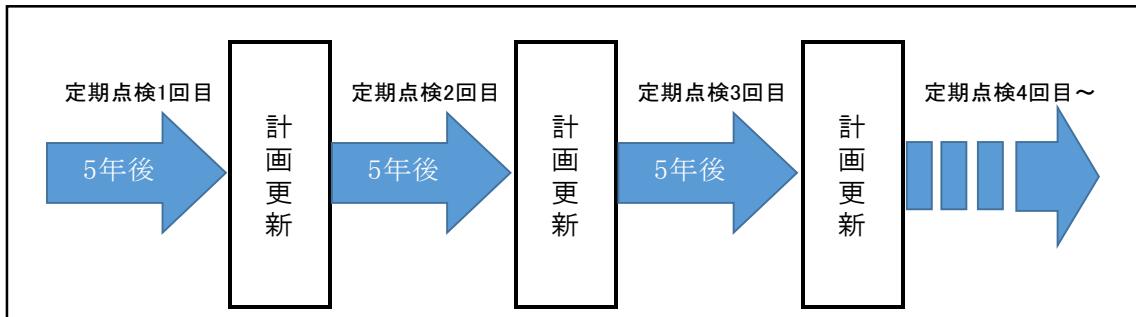


図 10 計画期間図

5. 予防保全による効果

2・可児市の管理橋梁に対して、以下の条件で予防保全型及び事後保全型維持管理を50年間実施したと仮定したシミュレーションを行った結果、予防保全型維持管理が事後保全型より5,067百万円安価となりました。(削減率約50%)

・今後も計画更新に合わせシミュレーションの見直しを行い、予防保全型工事計画を実施していきます。

(条件)

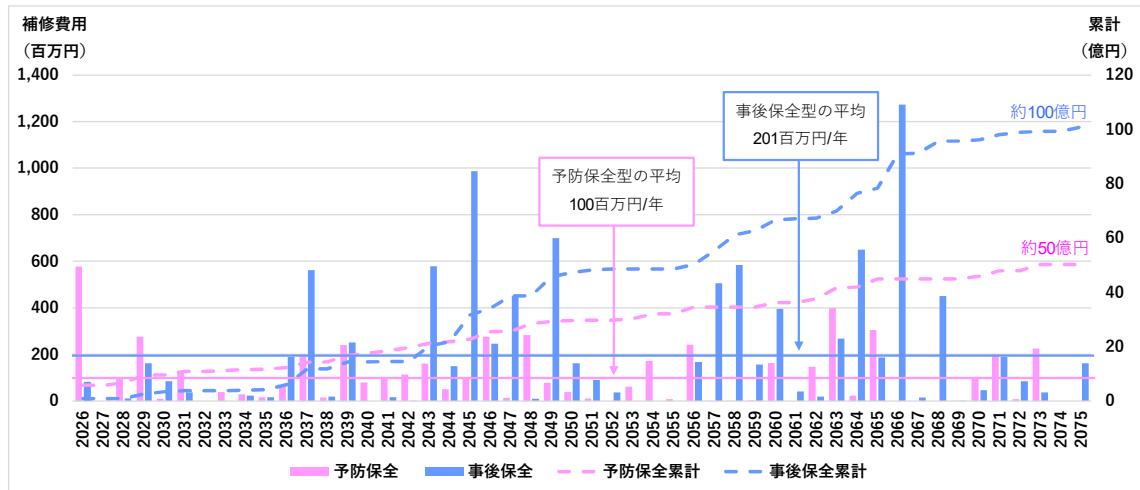
・対象橋梁の2巡目点検が終了している280橋でシミュレーションを実施。

・補修対象橋梁は、部材ごとの健全度判定区分Ⅱ、Ⅲ、Ⅳでの対策費用を計上した。

(Ⅰ→Ⅱ、Ⅱ→Ⅲ、Ⅲ→Ⅳへ健全度が悪化する時期を点検結果から予測した)

LCC計画期間 50 年(修繕費用)

	2026～2035	2036～2045	2046～2055	2056～2065	2066～2075	合計
修繕費(事後)	414	2,752	1,692	2,972	2,257	10,088
修繕費(予防)	1,169	1,104	939	1,281	528	5,021



6. 今後の取り組み

6-1 新技術の導入

- ・コスト縮減や維持管理の効率化を図るため、国土交通省「新技術情報提供システム(NETIS)」などに記載されている、維持管理に関する最新のメンテナンス技術の積極的な活用を図ります。
- ・令和11年度までに、補修を実施する16橋について、断面修復や塗装塗替えなどの工種を対象に、新技術(あるいは新技術に類する技術)を活用し、従来技術を活用した修繕と比較して約40百万円のコスト縮減を目指します。

6-2 集約化・撤去等による費用縮減

- ・道路の利用状況(緊急輸送道路・避難経路の有無・重要路線等)及び周辺状況(迂回路の有無・孤立集落の有無・近接橋梁の状況等)により、集約化・撤去、機能縮小が可能な橋梁について検討を進め、維持管理に関する中長期的な費用の縮減を目指します。
- ・令和11年度までに、道路の利用状況及び周辺状況、社会情勢や地元の意見を踏まえながら、管理する282橋のうち1橋の集約化・撤去等により、更新時期を迎えるまでに必要となる維持管理費用を約7百万円程度縮減することを目指します。

6-3 職員による点検の継続

- ・5m以下の橋梁については、引き続き職員による点検を行っていきます。



目視検査



クラック確認（橋台部）



可児市 建設部 土木課

可児市橋梁長寿命化修繕計画

2013年3月策定

2019年1月策定

2022年3月策定

2024年3月策定

2025年3月策定

TEL:0574-62-1111

Email: doboku@city.kani.lg.jp

住 所: 〒509-0292 岐阜県可児市広見一丁目1番地

U R L: <https://www.city.kani.lg.jp/>